

プライスレス 素敵な恋のを見つけ方

2008(平成20)年2月5日鑑賞(GAGA 試写室)

★★★★★



監督・脚本・台詞＝ピエール・サルヴァドーリ／出演＝オドレイ・トトゥ／ガド・エルマレ／マリ＝クリスティーヌ・アダム／ヴァーノン・ドブチェフ／ジャック・スピエセル（シネカノン配給／2006年フランス映画／105分）

第3章

内容の面白さは男女を問わず

……まず、胸元露わなドレスに身を包むオドレイ・トトゥに注目だが、それ以上にストーリーの面白さに注目！ フランス発のラブコメの生命線は、しゃれた会話と面白い(?) 騙し合い！ 玉の輿狙いの女と有閑マダムのごゴロは今やその頂点を極めたが、それと対置される「プライスレス」とは……？ 私がなぜ5つ星をつけたのか……？ それは、きっとあなたも理解してくれるはず……。

これぞ、最高のフランス発ラブコメ！

「ラブコメの女王」と言われたメグ・ライアンが最近不振(?) なせいかわ、ハリウッド発の面白いラブコメが少ないように思っていると、ここにフランス発の面白いラブコメが登場した。そのヒロインは、最近『ロング・エンゲージメント』(04年)と『ダ・ヴィンチ・コード』(06年)で私が観たオドレイ・トトゥ。彼女は1978年8月9日生まれだから今年はどうとう30歳になるわけだが、この映画での演技を観ていると、ラブコメの女王の資質は十分。

もともと美貌とスタイルは申し分ないから、思い切り肌を露出したドレスを着ても実によく似合ううえ、大きな目で見つめる表現力の多様さは群を抜いたもの。もともと、女はウソつきで男を騙す動物(?) だが、オドレイ・トトゥがそんな役を演ずるとまさに最適……？

他方、フランスにはフランス流の良質なコメディの伝統があり、それを正統に受け継ぎ表現する男優もたくさんいる。その1人が今回私がはじめて観たガド・エルマレ。彼はコメディアンとして絶大な人気を誇ってきただけあって、この映画でも実にいい

味を出している。さらに、ピエール・サルヴァドーリ監督はコメディの名手として知られているらしい。そんなサルヴァドーリ監督が3年ぶりに発表した新作がこれだが、2006年12月のフランス国内の劇場公開時には、200万人を動員する大ヒットを記録したとのこと。「これぞ最高のフランス発ラブコメ！」と思うこと確実。そんな良質な映画を心ゆくまで堪能しよう。

金がすべて……？ それともブライスレス……？

日本ではホリエモンこと堀江貴文と村上世彰の村上ファンが叩かれ潰されたことによって、ベンチャービジネスの芽が摘みとられ、株式上場の件数も大幅に減少しているが、実はこれは由々しき問題。だって、経済活動のパイ自体が小さくなっているのだから、「格差の是正」などと小さなパイの中での取りあいに固執していると、下手すればパイ全体（＝日本全体）が外国に乗っ取られる危険も……。

そう考えれば、経済学的視点からみれば、「お金がすべて」という発想は決して悪いことではないと割り切ることが大切だと私は思う（？）のだが、コト男女の恋愛論に関しては話は別。しかし、もともと女は金に弱く、物欲にあふれた動物……？ そのうえ、平気でウソをつける動物……？ この映画におけるイレーヌ（オドレイ・トトゥ）の言動をみていると、ホントにそう思ってしまうが……。

今、イレーヌは……？

今イレーヌは、大富豪のおっさんジャック（ヴァーノン・ドブチェフ）と最高級のホテルに泊まり、贅沢三昧の生活を送っているが、これはすべてカネが目当て。また、今日ジャックから高価な指輪をプレゼントされたところをみると、この2人の結婚はいよいよ間近……？

結婚までこぎつければ、玉の輿狙いでそれまでムリなお芝居を続けてきたイレーヌにとってやっと安心できるというもの。だって、入籍をしたうえ贅沢三昧の生活をしながらおっさんのご機嫌をとっていれば、そのうちおっさんはあの世へ。そうすれば、莫大な遺産まで……。イレーヌが、そんな計算をしていたことは明らかだが……。

男のウソは仕方なく……？

このようにイレーヌのウソはすべて計算づくだし、イレーヌがムリをして高級ブラ

ンドのドレスで着飾っているのは、ただただ男を騙すため……？ しかし、あの夜高級ホテルのバーで働く、しがないウエイターのジャン（ガド・エルマレ）が結果的にそんなしたたかな女を逆に欺くことになり、一夜のHまでありつけたのは、いろいろなハプニングが連続したため。なぜイレーヌがウエイターにすぎないジャンを大富豪と誤解したのかは、この映画冒頭の面白いシーンだが、感性の鋭いあなたなら、それを観ただけでこの映画の以後の面白さも実感できるはず。バーのウエイター風情の男ジャンが最高の美女イレーヌと最高級ホテルの一室で共に一夜を過ごすことになったのは、2人ともぐでんぐでんに酔ってしまったため。しかし、そこには女の積極的なウソと、男の仕方のないウソが共存していたことは、私の目には明らか……。

1年後、夢が再び……？

あの、めくるめくような一夜限りの夢が終わった後、ジャンは真面目にウエイターの仕事に従事していたが、そのジャンの前に再びイレーヌがジャックと共に登場！ ウエイターとして接客中のジャンが咄嗟にいかにも大富豪に変身するのか、その軽妙なお芝居には思わず「アハハ」と声を出して笑ってしまったほど。ピエール・サルヴァドリー監督の演出やガド・エルマレの演技力を目の前にして、「これぞ、ホントのフランス流コメディ！」と感心！

「1年前の夢を再び！」と、1年前と同じパターンでジャンはイレーヌと一夜を過ごしたものの、「老人は早起きするもんだ」というジャックの追及の前に浮気がバレってしまったイレーヌは、ジャックから三下り半をつきつけられることに。イレーヌはさすがにその時は「しまった！ ドジってしまった！」と思ったが、この手の女は切り換えが早いのが特徴……？ 即座に「ジャンに切り換えればいいわ！」と戦略を練り直し、再度ジャンのベッドの中にもぐり込んでいくことに。

しかし、コトが露見するのは時間の問題……。2人がベッドの中にいる部屋に、その日宿泊する家族連れが案内されてきたから、もはや万事休す。ジャンのウソがバレてしまった時のイレーヌの表情がキュート……。彼女はただひとこと「信じらんない！」と言い残してホテルを後にしたが……。

金の切れ目が縁の切れ目……

大阪の北新地には座っただけで3万円も5万円もする高級クラブがたくさんあるが、

なぜ多くの男たちはそこへいくの……？ もちろん夜の社交場としてのオフィシャルな利用もあるが、大半はキレイなおネエさん狙い……？ したがって、何度か店に通いお目当てのホステスさんと馴染みになると、その後決まってかける言葉は、「一度、食事に行こう」というもの。つまり、お店の中での客とホステスとしての会話ではなく、店外で1人の男と女としての食事と会話を楽しみ、あわよくばその後のお楽しみも狙っているわけだ。ところが、そんな色気狙いの客の扱いに慣れているのがプロのホステス。食事の際には「〇〇を買ってくれ」、私の誕生日には「△△を買ってくれ」とおねだり戦術が展開されるから、男は大変。何回もお店に通い、店外デートも再三くり返し、たくさんのプレゼントを貢いだにもかかわらず、こちらの狙いははぐらかされてばかり。そして、挙げ句の果てはポイ、というパターンが多いのでは……？

なぜこんなことを書いたかという、この映画のジャンが結果的にそうってしまったから。その原因は、ジャンにとってイレヌは全く異なる世界に住む女で、本来縁もゆかりもなかったはずなのに、ジャンはイレヌの美しさにホレてしまったこと。彼女がニースにいることを突きとめたジャンは無謀にもニースに出かけていき、やっとホテルのレストランの椅子に座るイレヌを発見したが、イレヌはここで次のパトロン候補と食事の予定。そんなところをジャンにうろうろされたら迷惑この上ないのは当然。したがって、「あの変な男が気になるからボクは帰る」という展開になってしまった責任はすべてジャンにあることは明らかだ。

その結果、今日の食事のみならず、ホテルのチェックインまでジャンが世話し負担することになったのだが、なぜかジャンはカードの残高を気にしながらもうれしそう。しかし、翌日からイレヌの買い物攻勢が始まると、たちまちジャンの残高は底をつき、ジエンド。「金の切れ目が縁の切れ目」とはよく言ったものだが、ジャンの場合はそれ以上に「弱り目に祟り目」という面も。つまり、多額のホテル代が支払い不能となったため、ジャンは警察につき出される寸前に……。

こんな逆玉もあるから面白い……

長年身についた習慣とは恐ろしいもので、ウェイターやポーターとしての仕事が生についてしまうと、「おい君！」と声をかけられるとすぐに「ハイ」と返事して反応したり、「お客様の荷物を！」と言われるとつい手が荷物にいつてしまうらしい。パブロフの「条件反射」ではないが、まさにジャンの場合がそう……。

そんな面白い「出会い」でジャンが知り合った(?)のが、このホテルのスイートに宿泊している未亡人マドレーヌ(マリー＝クリスティーン・アダム)。「誰かいい男はいないか」と物色していた大金持ちの女性のお眼鏡にかなうという予想もしない展開に。こんな逆玉もあるから面白い……。

そしてそういうわけなら、ホテル側だって部屋代をつけ替えばいいだけだから安心。かくして、イレーヌは新しく見つけたパトロンのジル(ジャック・スピエセル)と共に、ジャンは未亡人マドレーヌと共に、それぞれのスイートルームで楽しく過ごすことになったが……？

ジャンの成長ぶりが面白い！

いくら大金持ちでも女はもともとケチ(?)だから、ジャンがマドレーヌの世話になっているといっても、買ってもらったのはシャツ1枚だけ。今や同じ道を歩むことになったそんなジャンをイレーヌが「バカじゃないの!」と思ったのは当然。

そこで始まったのが貢がせるコツや口説きのテクニックの伝授だが、これが「なるほど!」と思わせるものばかりだから面白い。是非あなたも勉強を……。そのうえジャンには天性の素質があったのか、その腕前はめきめきと上達し、たちまち師匠をしのぐレベルに……。その第1の成果は3万ユーロもするジャガー・ルクルトの時計。その紹介は省略するが、この時計がその後いろいろとジャンの人生を左右する面白い存在となるから注目を! とにかく、ジャンのホストとしての成長ぶりが面白い!

イレーヌは再び、同じミスティクを……

お互いの戦果(?)を自慢し合いながら毎日を楽しく過ごすイレーヌとジャン。その様子をピエール・サルヴァドーリ監督はユーモアたっぷりに描いていく。またオドレイ・トトゥもガド・エルマレもその演技にノリノリ。したがって、それを観ている私たちも思わずニヤニヤ。

ところが、イレーヌは再びあの日と同じミスティクを犯すことに……。ジャン名義で買ってもらったスクーターに乗って海に向かった2人が海辺で一夜を過ごしたのはあまりにも大胆だったが、それがバレなかったのは単なるラッキー。しかし、今晚ニースからベネチアに発つことになったため、お別れのキスを大胆にくり返している姿をジルに目撃されてしまったから最悪。その結果、イレーヌは水着1枚の姿で1人ホ



©2006 LFP LES FILMS PELLEAS - FRANCE 2 CINEMA - FRANCE 3
CINEMA - TOVO FILMS - KS2 PRODUCTIONS

テルに取り残されてしまうことに。さあ、三たびイレーヌは立ちあがることのできるのだろうか……？

一世一代のサル芝居はあなたの目で！

折しもその日はホテルで盛大なパーティーが開かれようとしていた。イレーヌが新たなパトロンを見つけるためには、優雅なドレスに身を包んでそのパーティーに出席することが不可欠。そんな状況下でのジャンの行動は素早くかつ勇気あるものだった。

それは、あの3万ユーロもする時計を売っ払ってイレーヌのドレスなどを買いそろえるというもの。すると、もしマドレーヌから「あの時計は？」と聞かれたら、ジャンはどう対応するの……？ そのネタばらしをしてしまうと面白くないから、それは是非あなたの目で……。

また、何とそのパーティー会場にはあのジャックが新しい女と共に登場し、イレーヌを見下したような目で見ていたから、イレーヌがカチンときたのは当然。そこで、ジャックに一泡ふかせるためにイレーヌが考え出したアイデアとは……？ そんなアイデアを実行に移すためにはかなりの演技力が必要だが、今やジャンは十分な演技力を身につけているはず……？ この映画のラストに展開される一世一代のサル芝居は、是非あなたの目で確認し、じっくりその楽しさを味わってもらいたいものだ。

🎬 タイトルの意味を かみしめよう……

さあ、いよいよ映画はクライマックスを迎えることになるが、この映画がどんな終わり方になるかについて、賢明なあなたなら想像がつかはず……？ ちなみにこの映画のタイトルは『プライスレス』だが、「priceless」とは「非常に貴重なこと、金で買えないようなこと」という意味。

玉の輿狙いのイレースはパトロンにバンバンとカードを切らせてたくさんの貢ぎ物を獲得してきたし、いつしかジャンもそれと同じ生活を楽しんでいた。しかし、それって一体ナニ……？ ホントに価値のあること……？ そう考えると、逆に「非常に貴重なこと」や「金で買えないようなこと」とは一体ナニ……？ この映画を観てそれがわかれば、あなたの人生観は大きく変わるはず……。

2008(平成20)年2月6日記

第3章

内容の面白さは男女を問わず

ド・エールマレに乗り換え
たのは、然だが、実は彼の

「サルも木から落ち」
て

しまつたわけだが、その後
ジャンが彼女に本気でホレ

たかやましい。金の切
れ目が縁の切れ目となるの

は最高。そして、共謀した
二人が最後に見せる、世一

ず。

お金？ 愛？ それの問題だ！

女性美しく着飾るのは何のため？ それは大富豪を見つめ、あわよくば玉のこじに奪取のため。そう割り切る美女イレース(オドレイ・トトウ)が、オジさんから若い大富豪ジャン(ガ



プライスレス 素敵な恋の見つけ方

22日からシネ・リーブル梅田ほかで公開



©2006 LFP LES FILMS PELLEAS-FRANCE 2 CINEMA-FRANCE 3 CINEMA-TOVO FILMS-KS2 PRODUCTIONS

は当然だが、今度は何とジャンが大逆持ちの未亡人に急接近。ホリエソンの刑事控室審問が始まったが、堀江流、金があつて」の発想は既に時代が公開限られ気味。この美女の思考は徹底的にそれで、薫陶を受けたジャンの成長目撃まし、そのジロロぶりたるや、やや師匠越え。スリリングな展開の中に見るおしやれなリアリティと軽妙な演技のぶつかり合い

代の「サル芝居」は、これぞラブコメの神髄！問題は「プライスレス」でお金で買えないこと」という邦題。イレースの生き方は正反対の邦題のその意味は？フランスの男女関係は、サルコジ大統領の離婚から三度目の結婚劇、事実婚が多く五割が婚姻外子という実態をみる限り米国よりよほど先進的？ そんなフランス発のラブコメは楽しめるだけでなく、人生の教訓も満載。それを学び取りれば、あなたの男女観と人生観は大きく変わるはず。

大阪日日新聞 2008(平成20)年3月14日